訪問介護事業所、現状把握のための調査(2020年度)

調査結果
長生郡市内の指定事業所【42】（ワムネット調べ）へ配布。回答事業者【21】
【　】の数字＝回答数値　　＝記入回答　赤文字＝最多項目

1、あなたの職種を教えてください。
管理者【8】　サービス提供責任者【15】　常勤ヘルパー【3】　登録ヘルパー【2】
その他【2】

2、コロナウィルス感染拡大における事業所状況
コロナウィルス感染拡大予防政策（自粛要請等）でサービス提供が
増えた【0】
減った【10】
・約一カ月休止状態となりました。その後訪問が再開しました。
・感染リスクを考えて、自粛の為。
・予防の方、自身の判断にてコロナ感染予防の為に訪問を断られる事がありました。
・サービスの見直し（タイト化）により回数減。
変わらない【11】

1）/増えた/減った/を選んだ方、その原因はなんだと思いますか？＊複数回答可
利用者外出自粛の為【2】
家族の仕事の都合【2】
家族の意向（不安等）【4】
サービス事業所の事情（サービス時間短縮、回数制限等）【2】

2）現在コロナウィルス関連で困っている事はなんですか？*複数回答
訪問時の感染予防対策【14】
・今後、感染の可能性が出た場合の訪問マニュアルがあると良いです。
職員のストレスケア【10】
・時期的に風邪等での発熱もあった為、コロナも疑いヘルパー
選定に迷いました。
衛生物品の確保【9】
利用者や家族の協力や理解（外出自粛や検温等の協力）【6】
・利用者はコロナの事を理解されない。例：皆がマスクをしているので自分がしな
くても感染しない。利用者の友人がマスクもしないで遊びに来る等。

発熱者への対応（医療機関の受け入れ等）【9】
・発熱時には医者でもコロナ検査を中々してくれない。
他【1】

3、訪問介護の業務の現状について教えてください。
多忙である（プライベートの時間も頭から離れない。業務している。）　【9】
・多忙ではあるが人が生きていく上でのサポートなので当たり前と思っている。
・ワーカー不足（技術面含む）
・ニーズは多いのに担い手がいない。人員不足が慢性化している。
・人員配置や登録という形態であると、訪問内容を把握する事にエネルギーを使う。
多忙ではない（一般的な範囲である）【7】
考えた事はない【1】

4、業務ついて相談できる相手はいますか？
職場内にいる【16】
・一人ではできないので皆に相談しながら進めている。
・クレーム対応。困難事例等。
・問題のある利用者の対応等。
・ケア内容について。
・法令に違反していないか。介護保険適用となるか。
職場外にいる【5】
・法令等の確認、サービス内容の確認。
いない【0】

5、実際に従事してみて訪問介護は社会的にどのように役割であると感じますか？
介護の専門家【15】
・利用者に最も身近に位置して関わっている。
・専門的な目をもって観察しサポートしている。
・多職種に伝える事で利用者を守る事を仕事としている。
・介護の専門化といいたいですが、自分達の心構え、技量も足りていないと思います。社会的には「お手伝いさん」感覚が強いように感じます。昔より改善されていると思いますが。
・お手伝いさんから介護の専門化へと変わりつつあると思う。ヘルパーが医療行為も少しずつできるようになってきているので医療の知識が必要と思う。
家事支援の専門家【3】
医療従事者【0】

なんとも言えない。【5】
・利用者も家族もヘルパーとお手伝いの違いが良く理解されていない。
・利用者自身も訪問介護を理解されていないと思う。介護料を払っているから。安く掃除をしてもらう。自分のところをやりながら手伝っていただき自宅で生活しやすくする。一緒に考え、一緒に行いながら暮らしやすくしていく。訪問介護職員もその意味を正しく理解し利用者へ説明できなければいけないと思う。
その他【0】

6、スキルアップのための研修等の参加はしていますか？
職場で実施。【14】
・介護技術は基本を学ぶことで個別対応への応用も生まれるので繰り返し職場で実施。
・コロナ前は外部研修に参加していた。
外部の研修に参加している。【14】
していない。不十分と感じる（必要は感じるけどいけない等。）【1】
・重度訪問介護の研修をしたい。人員不足のために研修に行けない。
・今期の外部研修は参加していない。
・年に2,3回の参加です。業務振替えられない。不十分であると感じてしまう。
必要を感じない。【0】

7、現在、職員は足りていますか？
足りている。【5】
足りない。【13】
どちらともいえない。【5】

8、全国的に介護人材不足と報道等でされていますが、職員（ヘルパー）を定着させるために何が必要と思いますか？（複数回答可）
業務内容の確立【5】
・若い職員や男性は施設へ行くことが多いように感じる。
社会的評価【13】
収入保証【15】
・いる人でやれる範囲で細々とやっています。若い人がこの仕事に就き長続きしてくには収入も含め改善しないと無理と思います。
労働環境の改善【10】
・例えば、福祉以外の業界で時給1000円と張り紙。4時間で4000円、移動時間もないし仕事が終わればそれでよし。報告書もない！と考える人も多々あるようです。
・どんな時でも休めない。訪問するのが当たり前。例：今回コロナの時も、台風の時も

訪問しなければいけない。若い人にはハードルが高いでしょう。
・様々な改善により優遇と甘えのバランスが難しいと思っています。
その他【0】

9、事業所間の横のつながりは必要であると思いますか？
必要と思う【16】
・経営もあるので教えてもらえないこともあるとは思うが、制度への対応など教えてもらいたいと思う。
・介護度高い利用者に対する支援（チームケア）
・利用者の申し送り、ヘルパー同士の情報共有。
・一つの事について、色々な考え方があると思う。顔が違うように考え方も色々とあると思う。他の人の考え方を知る事によりいままで気づかなかった事に気づく。
・情報共有。
・同一利用者に複数の事業所で介護している時に横のつながりがあるとスムーズと思う。
必要ないと思う【2】
あってもなくても良い【4】

10、研修や事業者間の交流があるとすれば参加しやすい頻度、時間を教えてください
＊現在、第2週目の火曜日午後6時～午後7時半開催しています。
頻度：（週１回【0】　月１回【13】　半年に１回【2】　１年に１回【0】）
曜日：（月【1】　火【4】　水【0】　木【3】　金【3】　土日【2】）
時間：（早朝【0】　午前中【2】　午後【3】　夕方【2】　夜【4】）
忙しくて時間は取れない。【4】
・7時半であった時は出やすかった。
・午後6時ごろまで訪問があるので、始まりの時間を午後6時半くらいだと出席できる。
・現状でよいと思います。

11、あなたが訪問介護を始めようと思った理由を教えてください（複数回答可）
人のために仕事がしたいと思った【12】
・数十年前に介護福祉士等の法律ができたときに仕事につきました。これからは高齢者福祉の時代と思いました。仕事に就き、障害福祉も遅れている事に驚き両輪で進めてきました。介護保険ができたときはうれしかったです。
・介護事業に属する仕事が増えると思った。その当時は時給が良かった。
・スキルアップ。
・資格を取る前に父が他界し、移動・移乗の負担の少ない方法を知っていたらもっと看てあげられたらと思い、研修に参加しました。

・祖父の介護時に当時は自治体から情報が少なく家族で困った事が理由で勉強しようとおもいました。
・親の介護。
・自分らしい生活を続けていくために援助したい。
時間の有効活用【1】
自分にもできると思った【5】
・知人の紹介。
その他【6】
・サ責がいないから。

12、もし自分の子供や大切な友人が訪問介護士になりたいと言ったら。
大賛成【3】
賛成【8】
反対【0】
その時にならないとわからない【8】

最後です。訪問介護のやりがい、良かったエピソードぜひ教えてください！
・在宅は最もその人らしい場所です。そこで暮らしを続けたい方の手伝いを直接的に行える訪問介護をやれる事、うれしいです。皆の観察の積み重ねで病気の早期発見、治療につなげる事ができる事等。
・在宅での生活を希望される方にとってできない部分を支援する事により感謝される事。（ありがとう、さっぱりした・・。笑顔をみると疲れも飛びます。）
・利用者の「ありがとう。」という一言。
・利用者様と一対一で接する事ができるので良い時も悪い時も時間を共有でき本音を話してくださることもある。
・仕事を通じて教えられた事も沢山ありました。訪問介護という物を正しく理解された時、とてもうれしく思いました。自分自身が訪問介護の良さを理解してもらえる様にお話しできる事が必要だと思っています。心が通じあえるとやりがいを感じます。
・色々な方との出会い。
・なかなか心を開いてくれない利用者がありがとうと声をかけてくれた時。
・ヘルパーさんが来ると家の中が明るくなると利用者とそのご家族から言われた時。
・ご利用者様の状態が改善していく、心を開いてくれたと確信できた時。
・日々、交流でやりがいを感じられること。皆さまが大変必要としてくれること。
・ありがとうの一言。顔をみて落ち着いたとき。
・拒否的な利用者がヘルパーを受け入れ、体調や生活が安定してきた事。